



今回は、「未来につなぐ地域防災プロジェクト」の報告(その2)です。

◇ インフラ改良と活用、防災活動の充実は、持続可能な地域発展に必要です。



◇ さくら塾 防災(2) 自宅を守る! 自宅で避難生活する!

今年度、保健委員会と防災リーダーが中心となり、SGHの一環として「防災」に取り組んでいます。8月には「身近なところから防災を考える ～校内安全点検を見直す～」として岐阜大学の村岡先生を講師にお招きして学校の安全点検を通して危険に対する「危険に対する目利き」「危ないという判断」のポイントを教えてくださいました。そして今回は、地震が起きた時、学校内だけではなく「地域」と連携をして防災を考えることが大切であると考え、保健委員会と防災リーダー、さらに厚生委員も協力して地域の方々に声をかけて研修会を行ないました。

期 日： 2018年11月2日(金) 16:00～17:30

場 所： 岐阜県立関高等学校 桜ヶ丘会館 特別教室

講 師： 岐阜大学地域減災研究センター 特任准教授 村岡治道氏

演 題： 自宅を守る! 自宅で避難生活をする! ～地震の備え～

参加者： 1・2年生保健委員・厚生委員、防災リーダー、 地域の方々(15名)、
他校職員(3名)、関市役所職員(2名) 計 52名

※ 地域の方へは、学校ホームページでのお知らせと保健委員・厚生委員・防災リーダーが学校周辺のお宅に案内チラシのポスティングを行った。

<内 容>

「防災」とは「災いを防ぐ」と書く。「災い」を人が負傷し、最悪の場合は亡くなる事と考えると、地震の時、人はどのように傷つき、亡くなるのかを考える。地震で負傷し、亡くなった方は、ほとんどが倒壊した家屋の下敷きと倒れてきた家具の下敷きで犠牲になっている。それならば、事前に「倒壊しない家屋」と「倒れない家具」を準備して備えておくことこそが「災いを防ぐ」ことになり、「防災」である。「生活を守り切る防災」「災いを防ぐ防災」を実践して、事前の備えで家族と自宅を守り切ることが大切である。

最初に、実際に震災で家屋が倒壊したり、家具の転倒や飛び出し、さらにはキャスター着き家具が部屋の中を動き回る映像をみて、震災時の「揺れ」の大きさ、恐ろしさを実感した。地震の揺れをイメージできるようになった後、事前の備えで大切なことを説明された。

【避難訓練について】

1) 緊急地震速報の警報音は、最後まで聞かない。(フライング!!)

最初の警報音で安全な場所を見極めて瞬時に移動。

(倒れてこない、落ちてこない、塞がれない場所)

- 2) ただ漠然と机の下が安全と考え、机の下に潜るのは危険。
安定が悪い机、ガラス板、机の場所（上からガラスが落ちてくる場所）等を避ける。

【事前の備え】

1) 耐震性確保

- ・家屋の耐震化
- ・下宿を含めて将来家を借りたり、購入するポイント。
→ 利便性や家賃だけでなく必ず耐震性も確認

2) 家庭内DIYと家具転倒対策

- ・各自実際に自分の部屋の見取り図と家具の配置を描いた後、家具転倒、ガラス飛散、電灯落下の予測を記入する。→ 家の中は危険がいっぱい！
- <対策>
- ・家具の固定 → 正しい固定方法を確認。(間違った方法で安心していると余計に危険)
- ・家具の向きと位置 → 万が一家具が倒れても人が下敷きにならない向き、場所を選ぶ

3) ガラス飛散防止 → ガラス飛散フィルム、テープ（窓ガラスだけでなく、食器棚等も確認）

4) 火事対策（通電火災） → 感震ブレーカー設置

5) トイレの備え

震災時 トイレが使えなくなる。(避難所のトイレも直ぐには設置されない)

<トイレの備蓄必要量>

- ①一日1人何回トイレを利用する？ (小) 回 (大) 回
②トイレの復旧に要する日数は？ 3 ~ 30日
③家族は何人？ 人
④備蓄すべきトイレの数は？ ① × ② × ③ = ~ 回分

6) 水・食料・燃料の備蓄

- ・家族人数分の水・食料・燃料・トイレを1週間以上！
- ・保管場所は「下敷きにならない、ガラスの破片を浴びない」が鉄則。

【事前の共助】

- 近所、自治体でお互いに手伝いあって我が家の防災をすすめる。(共助)
→ 力仕事の助け合い、勉強会、実演等

**地震対策は事前の備えがすべて！！！！
自分の命は自分で守る！**



感想

【地域の方】

- 5秒以内に下敷きになることが解ったので、家具転倒対策の見直しが大切なことがわかった。
- 食料の備蓄は考えていたけれど、トイレ対策も大切だと解った。
- 自治会で何ができるのか、何をしなければいけないのか。各家庭で備蓄等は自己責任で備えてもらう。一方で住民の方へ情報は発信していく。責任の分散の考え方は納得した。
- 家庭内DIYで自分の命は自分で守ることを実感した。まず自分が生き残る！
- 家の中をチェックします。固定具材の知識はよかった。

【学校関係・生徒】

- 防災のことについて考える際、いつも地震が起きたらどうするか、避難所の確認や備蓄品の準備のことを考えたていたが、地震が起きても自分を守れるような準備を考える必要があると学びました。
- 家具等はただ固定するのではなく、正しく固定することが大切だとわかった。
- 避難所をあてにしないスタイルが大切であることに初めて気がついた。
- 家具が倒れないようにするだけで数多くのポイントがあってとても驚いた。週末の土日に確認したいと思った。
- 備蓄は食事だけではなくトイレにも気をつける。
- 地域との交流を持つことが大切だと思った。
- 地震が来た後に動くことよりも、来る前のことを考えることはそこまで深く考えていなかった。家の中の家具の置きかたで生死が決まってくるとわかったから家具をどこにおくかを一番大切にしたい。
- 南海トラフのような大地震では日本列島が広範囲に壊滅する。工務店やホームメーカー等も潰れる。そのため震災後の家の修復や仮設住宅さえ建てることできないという話はショックだった。
- 大学生になったらアパートを借りて生活しようと思っていたので選ぶときに「値段」「場所」などだけではなく「防災」についても考えたいと思った。
- 家具の固定で意味のない固定の例、その解消法をパワーポイントでわかりやすく教えてくださり、帰ったら家の隅々まで見てみようと思った。知らなかったことも多くありためになった。
- 地震が起きたら避難所に行けば何とかかなと思っていたが違っていた。
- 緊急地震速報がなったら「とにかく机の下に潜れ」は確実ではないとわかった。
- 実際に地震が起きたとき、自分が日常生活で使っているものが使えなくなると考えたらとても大変だと思った。
- 地震についていかに自分が楽観的に考えていたかわかった。